

発表者 渡部 正治

テーマ 「学校・家庭・地域の連携による教育について」

皆さん、こんにちは。渡部正治と申します。どうぞよろしくお願いいたします。中野生まれの中野育ちでございます。江古田小学校、第七中学校の卒業です。本日最後の発表となるようです。どうぞよろしくお願いいたします。

発表のテーマは今、ご紹介いただきましたように、「学校・家庭・地域の連携による教育について」ということでございます。

初めに、簡単に自己紹介をさせていただきます。大学卒業後、国内損害保険会社と日米合弁の損害保険会社でビジネスパーソンをしていました。会社は既に退職しておりますけれど、在職中から大学等で教鞭をとりつつ、大学、民間の研究機関で研究員をしており、現在は民間の研究機関でシニアフェローを務めております。

それでは早速発表に入らせていただきます。子どもを取り巻く環境ですけれども、学校・家庭・地域になりますが、いずれも身近なものであり、環境を整備することは非常に重要でございます。特に学校の登下校時を見守る地域、子どもを孤独にしない、孤立させない家庭のあり方など、学校との連携は大切なものになっております。

学校の先生ですけれども、先生方は教育のプロフェッショナルです。児童生徒の一人ひとりの個性や特性を把握して、充実した教育の実践が期待されます。ICTを活用した質の高い教育の推進の取組や、個々の家庭環境に配慮した教育のあり方も非常に重要かと思えます。家庭・地域の連携に関しては、学校評議員制度、地域学校運営協議会制度の活用の推進が、その要になるのではないかと思います。

家庭については、共働き世帯の子どもや、シングルマザーなどのひとり親世帯の子どもを孤独にしない、孤立させないことが肝要で、そのために学童クラブを充実させる、あるいは児童館を積極的に活用してもらうことなどが挙げられます。また、特別な配慮を必要とする子どもに、その家庭が気兼ねなく相談のできる支援体制を充実させることも忘れてはならないことだと思います。

地域につきましては、地域における子育ての支援を、児童館などを活用して呼びかけたいかがででしょうか。児童館における子育ての活動や、子どもが安心して過ごすことのできる居場所としての児童館を整備し、充実させたらよいと思います。

中野区は、2022年3月に中野区子どもの権利に関する条例を制定しております。子どもの権利を保障する、子どもにやさしいまち中野をつくっていくという宣言をしています。児童館の活用はまだまだあると思います。ま

た、ファミリーサポート事業活動についても、事業内容のよさはまだまだ周知するべきだと思います。

うちの近所の「地域っていいな」と思える活動は、登下校中の挨拶や声掛けがあります。学校にもこの地区、あの地区では登下校中に声掛けをしていると伝わって連携していれば、学校の先生方も安心だと思います。地域行事への参加の呼びかけ、地域住民と子どもたちの交流なども、地域ならではのきめの細かさです。家庭環境が恵まれない子どもへの声掛けや、相談に乗ること。特に心を閉ざした子どもが孤立しないための配慮と支援、子育て中の家庭が孤立しないような声掛けや交流を図ること。障害のある子どもや特別支援教育への理解を示すことは、とても重要なことだと思います。地域全体で子どもたちを育成していくという温かい雰囲気醸し出すことは、子どもたちにも自分の住んでいる地域はいいものだ、間違いなく伝わるでしょう。

国連で2015年に採択されたSDGs、持続可能な開発目標の2030アジェンダの前文に、「誰一人取り残さないことを誓う」という一文があります。学校・家庭・地域社会がしっかり地域の子どもたちを見守り、育ていくことが重要であり、さらに言えば、社会全体で将来ある子どもたちを育ていくことが大切なこととなるのではないのでしょうか。

私がただいま発表の中で申し上げてきた内容が、SDGsのアイコンの1、2、4、10、11、16、17にあります。すなわち、貧困をなくす、飢餓をゼロに、質の高い教育をみんなに、人や国の不平等をなくそう、住み続けるまちづくり、平和と公正を全ての人に、パートナーシップで目標を達成しよう、です。

さて最後に、学校・家庭・地域の連携で教育を受けてきた子どもたちの未来はどうでしょうか。コミュニケーションや社会の大切さが分かり、社会規範、良識、倫理的行動をとることができる社会人となって、健全な地球市民として、社会を支える人になっているのではないかと思います。

以上、私の考え方を申し述べさせていただきました。発表の機会をいただき、誠にありがとうございました。

区 長            ありがとうございます。子どもたちの地域への愛着というのが大事だなと。それは私も全くそのとおりだと思います。これ、今の教育の中で足りない部分というのは何なのですかね。学校教育で。

渡 部            恐らく先生方って、地域の人たちと交わるということをあまりされてないのではないかなと。地域と子どもたちとは今、接触が結構あると思うのですけれども、先生がその間に入ればもっとい

いのでしょうかけれども、先生がお忙しいからというのはしようがないと思うのですけれども、恐らく先生ってあんまり入ってこれない。逆に、私はスポーツ推進委員をやっているのですが、スポーツ推進委員が入ってくると、先生が出てくるような、そんなような意味合いがあるので。悪く言うつもりはさらさらないですが、先生がもっと活発に出ていくというのが重要かなと思います。ただ、先生、お忙しいですから、先生のその忙しさを取り除くような、そういう仕組みをつくって、先生にもっと出てもらおうというような、そんな意味合いが必要なのかなと思います。

区 長      スポーツ推進委員として、先生も現場に出てきてもらうというのは推進委員の働きかけがないとなかなか難しいということですよ。

渡 部      そうですね。スポーツ推進委員って結構ずけずけと入ってきますから。そういった中で先生がこれはどうなるのかなというときには、やはり先生が出てこられますね。

区 長      そうすると、コミュニティ・スクールをやる上でも、そうやった子どもたちと先生の間に何か入るものが必要だとか、例えば、地域と先生の間でまた入る、その間に何かコーディネーターみたいなのが必要だということをおっしゃったということですよ。

渡 部      それもありますね。地域住民と子どもというのは、接触はありますけれども、地域住民と先生というのは接触がないですから、地域住民に、今、間に入る方とおっしゃいましたが、別に間に入らなくてもいいのですけれども、地域住民に、中野区とうまく交わるような、そういう仕組みがあれば。例えば、今スポーツ推進委員と話が出ましたが、それ以外の何か肩書きみたいなのを地域の住民に与えれば、積極的に先生も出ざるを得なくなってくるのではないかなと、今までの経験から思います。

区 長      先生も忙しいけれども、そういうところが必要だということですよ。分かりました。ありがとうございます。